

第5期篠山市女性委員会 提言報告書

平成21年3月

第5期篠山市女性委員会

目 次

○ はじめに

○ 各部会からの提言

・ 市民サポート部会

資 料 アンケート結果など

・ 環境部会

資 料 ゴミ問題や生活排水に関するものなど

○ 第5期篠山市女性委員会名簿

○ 第5期篠山市女性委員会活動の概要

篠山市女性委員会設置要綱

5期篠山市女性委員会活動表

はじめに

第5期篠山市女性委員会は、平成19年7月18日 9名の委員の出会いから始まり、～みんなの“こうなったらいい”を形にしたい～とのキャッチフレーズで『思いは会議の中で出していく』というルールをもって和気あいあいと取り組みました。

まちづくりに女性の視点と能力を生かす篠山市女性委員会をPRしながら委員の発想と企画力、そして実行力で活動の輪が広がることを願い、“自分たちのできること”から“出会う”“つながる”“動き出す”を目的として進みました。

19年度は篠山市女性委員会のPRとして、チラシづくり、人権フェスタでのパネル展示やパンづくり体験を企画、運営しました。平行して委員の疑問や関心から関係機関への視察研修や市内外の方々と交流を進めながら、20年度には、“環境”“中間支援組織”と2つのテーマで調査研究を深める活動となりました。

活動を振り返り、財政難の今だからこそ私たち市民が積極的に参画し、まちづくりに取り組むことが急務と痛感しました。行政は財政の再建を第一に取り組んでおられ、私たち市民の力を必要とされていると感じました。『しんどいけれどメンバーと顔を合わせると楽しく元気になる』という今期女性委員会での体験は、場があって人が集まり会話し、その中で何かが生まれ動き出すという“出会う”“つながる”“動き出す”という今期女性委員会の目的や、ナチュラルネットワークの提言と結びつきました。このことから、自然な交流の場や機会が市内のあちらこちらにあれば市民一人ひとりの得意分野を生かせる緩やかなつながりができ、大きな力になるのではないかと実感しました。

40年以上の歴史を持つ多紀郡連合婦人会が無くなりましたが、女性の連携のもとに女性の教養と福祉の向上、明るく、住みよい地域社会の創造をめざして女性の活動の活発化を図ることを目的にした活動は異なる形で篠山市に残っています。篠山市女性委員会もその一つだと思います。道なき道を切り拓き、自らを磨き、社会のお役に立つ活動を続けておられる先輩たちに続けと様々な分野に参画する女性が増えてきました。しかし、市の審議会委員や自治会の役員などにおける女性の割合は低く、市の方針や政策の決定に女性のニーズが反映しにくい現状があります。

平成20年版の男女共同参画白書に、『女性が主導する地域に密着した活動は、人々の意識を変え、行動を変え、そうした過程を通じて人々を育成する。地域に根ざした地道な活動を継続することによって、男女共同参画に関する意識、地域の伝統や環境を守る意識、子育てに関する意識等が地域に浸透していく。

そうした意識の変革は、人々の行動に変化をもたらす。また、実践的活動を通じて女性が力を付け、政策・方針決定過程への参画が拡大されるという人材育成機能は重要である。』とあり、『女性が主導し、緩やかなつながりの核となって展開する地域に根ざした活動は、これからの地域にとって、多くの可能性に満ちている。』と結ばれています。

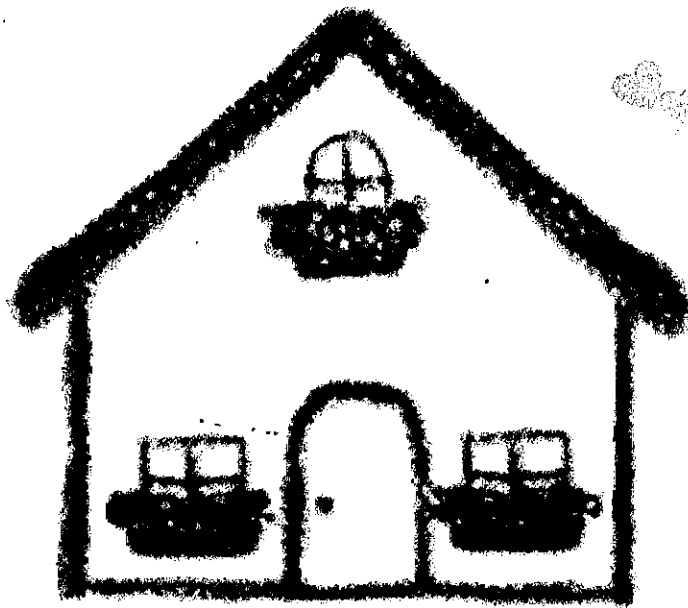
女性だからこそ見えてくるものを市へ伝え、女性がその能力を十分に発揮できる環境の篠山市女性委員会の存続を願います。また、併せて人材育成事業として女性委員会を充実させてください。第1期は19名、第2期、第3期は15名、第4期は13名、第5期は9名と委員が少なくなっています。人材育成は、「応募者がいないから」だけでは済まされる問題ではなく、継続してこそ効果が上がっていくものではないでしょうか。是非、来期も存続をお願いします。私たちは今期の活動を終えた後もまちづくりに関っていきたいと思います。

以上、私たちの視点でまとめたこの報告書が何らかの形で市政に活かされまことを心より願っています。

最後になりましたが、アンケートにご協力いただきました市民の方々、視察を温かく受け入れてくださった各種団体の皆さま、また私たちの質問や意見に快くお時間をつくっていただき、真剣に耳を傾けていただきました市の担当者並びに事務局の皆さまへ今期委員一同心からお礼申しあげます。

第5期篠山市女性委員会

市民サポート部会



岩島千河子
内藤万利子

山本 浩美
雪岡 則子

提 言

『ナチュネット』をつくってください

『ナチュネット』とは、「ナチュラル・ネット」を略しており、篠山の自然を大切にし、自然発生的に元気になる“人の輪”を広げていくもの若者達にも、『友達が増える。篠山も楽しい。』と感じられるそんな…まちづくりを目指し、以下のような活動をします。

1. 老若男女を問わず、市民が気軽に集える温もりのある場所
2. 市民主体のイベント活動や講座などのお手伝いや企画
3. 現在活動中の個人や団体の紹介・ネットワーク作り
4. 市内のイベントや施設の紹介

設置希望場所

市民センター1階 多目的室(現400年祭事務局)

希望理由…… 駐車場も広く、人の集まりやすい場所

市民センターの活性化

希望人員配置

『ナチュネット』に情熱をもって長期間常駐できる人を配置してほしい。

キャッチフレーズ

『ナチュへ行こう !! 』

ナチュラルネットワーク（中間支援組織）の設立

はじめりは・・・

第6回女性委員会(2007. 12. 25)では、「市バスの運用について」の研修を開催しました。

総務財産管理課の2名の方に、市バスの運行内容や車両の老朽化などの現状を聞き、市の財政難により市バス運用は、減少傾向にあることを知りました。

同時に、市民の市バス利用の要望は高いわりに、どうすれば市バスが利用できるのか、一般市民にはわかりにくいことから、市バス利用の『総括窓口』があれば、市民も相談に行きやすく、その活用方法も市民にはっきりわかり、財政難でもより有効な活用の道が開けてくるのではないかと話になりました。

さらに、市バスの運用だけでなく、ちょっとした生活上の悩み相談はどこに行ったらいいのか、市民同士の気軽な交流の場や、そこから生まれる篠山市活性化の具体的案のとりまとめ、サークル・ボランティアの紹介や各団体のネットワークづくりなどができる『総括窓口』があれば、篠山市に転入してきた人も、長く篠山市に住んでいる人もつながり、さまざまなネットワーク“人の輪”の広がりができるのではないかと、話は発展していきました。

『気軽に市民が集え、いろいろな活動のネットワークが広がり、市民が楽しめる企画が市民の中から生まれ、お互いが理解できる場所』が、必要です。

そこで、今期の女性委員会では『市民サポート、中間支援組織の立ち上げ』を提言の一つのテーマとし、調査・研究することになりました。

中間支援組織

市民と市民、市民と行政、行政と企業、各種市民活動団体の間に立ってそのパイプ役として、

中立的な立場でそれぞれの活動を支援する組織。

日本では、特定非営利活動促進法成立後、NPO 法人の増加とともに

全国的に中間支援組織の設置が相次ぎました。

篠山市の現状

篠山市では、社会福祉協議会や行政の町おこし活動、商工会、男女共同参画センターなど、中間支援組織的性格をもっている活動があります。また、NPO 法人もあります。

上記のようにいくつかの支援組織があるにもかかわらず、中間支援組織の立ち上げを提言する理由として、大きくわけて3点あります。

女性委員会の希望する中間支援組織

1. 市民主体

篠山には、生活上でこまったこと・不自由なことを、相談できる場所が少ない様に思います。特に、気軽に聞きに行ける市民の寄り合い場所はありません。

地域の人に聞けば、親切に教えてくれるかもしれませんが、昨今の実情で人と人の結びつきが弱くなっており、身近な人にはかえって聞きにくいこともあります。また、希望をもって新しく転入してきた人は、知り合いもなく、誰に尋ねたらいいのかも迷います。

学校を卒業した若者に、「そこに行けば、何かあるからいこう。面白い事があるかもしれないから行こう。」・・・そう思わせるものが今の篠山にはありません。

そこで、『そこ』に行けば・・・市民が市民同士でお互いに助け合い、補えあえる。市民目線で、市民の知恵をいかせ、ネットワーク情報がわかる。その中から、楽しい市民活動がうまれてくる。市民が生き生きとし、楽しんでいるまちにこそ、人々があつまります。

篠山市にとって、観光という側面も市の活性化を支える上で大切な要素であり、現在イベントの充実や大正ロマン館での観光案内などの努力により、篠山市への観光は、人々に楽しんでいただけていると思います。同時に、篠山市の住人が自らの創造性を発揮し、楽しみを企画・運営していくことが、さらなる市の活性化・観光の活性化につながる大きな要素になるでしょう。

篠山市の現状

篠山市では、社会福祉協議会や行政の町おこし活動、商工会、男女共同参画センターなど、中間支援組織的性格をもっている活動があります。また、NPO 法人もあります。

上記のようにいくつかの支援組織があるにもかかわらず、中間支援組織の立ち上げを提言する理由として、大きくわけて3点あります。

女性委員会の希望する中間支援組織

1. 市民主体

篠山には、生活上でこまったこと・不自由なことを、相談できる場所が少ない様に思います。特に、気軽に聞きに行ける市民の寄り合い場所はありません。

地域の人に聞けば、親切に教えてくれるかもしれませんが、昨今の実情で人と人の結びつきが弱くなっており、身近な人にはかえって聞きにくいこともあります。また、希望をもって新しく転入してきた人は、知り合いもなく、誰に尋ねたらいいのかも迷います。

学校を卒業した若者に、「そこに行けば、何かあるからいこう。面白い事があるかもしれないから行こう。」・・・そう思わせるものが今の篠山にはありません。

そこで、『そこ』に行けば・・・市民が市民同士でお互いに助け合い、補えあえる。市民目線で、市民の知恵をいかせ、ネットワーク情報がわかる。その中から、楽しい市民活動がうまれてくる。市民が生き生きとし、楽しんでいるまちにこそ、人々があつまります。

篠山市にとって、観光という側面も市の活性化を支える上で大切な要素であり、現在イベントの充実や大正ロマン館での観光案内などの努力により、篠山市への観光は、人々に楽しんでいただけていると思います。同時に、篠山市の住人が自らの創造性を発揮し、楽しみを企画・運営していくことが、さらなる市の活性化・観光の活性化につながる大きな要素になるでしょう。

2. 生活を楽しむ

現在、運営されている中間支援組織は、その支援対象が限定されています。

子育ての事を気軽に相談できる場所や、教育の事・ゴミ問題・買い物の事・老後の生活など、日々の生活に密着したさまざまな悩みを、その場所に集まってくる人たちが、庶民の知恵を出し合って共有できれば、日常生活は楽しくなります。(井戸端会議的な…)

行政にも相談窓口はありますが、行政には指導という職務上の性格があり、どうしても上からの視点に感じられ、気軽には相談しにくいと思うからです。

3. ボランティア団体・サークル団体の横つながりの活性化

篠山市では、ボランティア・サークルなどの活動もさかんで、篠山市ボランティア連絡協議会には 48 グループの登録があります。(平成 20 年度)また、登録グループ以外にも市民センターや図書館・各会館などを拠点に多数の人が活動しています。

しかし、それらのグループは活動状況が個々に限定されていて、各団体をつなぎ、お互いの情報を交換・発信する事により、さらに大きなうねりになっていくようなネットワークが現在ありません。

社会福祉協議会は、福祉活動につよいですが、個々の活動を結ぶところまで対応しきれていない現状があるようです。

必要な時一緒に活動でき、より大きなうねりとなるネットワークの場所があれば、さらなる広がりが望め、ネットワークを充実することで、活動に安定感と大きな喜びを得る事が出来ることでしょう。

話に
恥

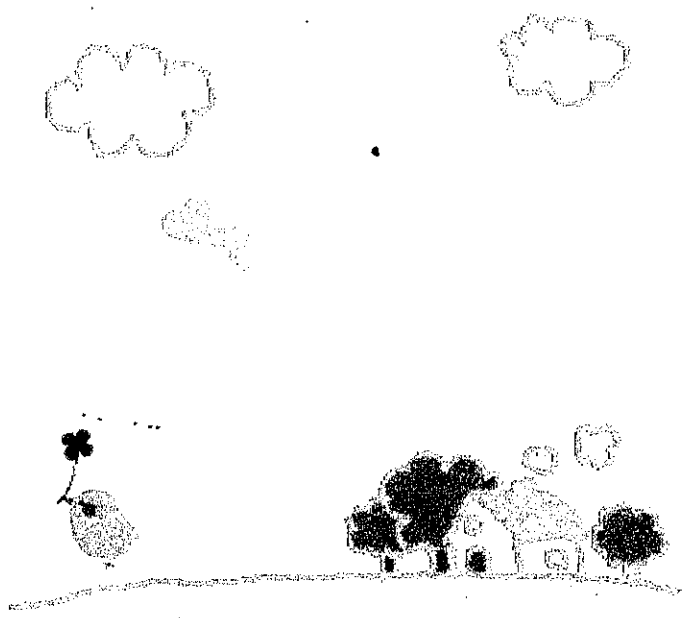
らす
る人

こと

まで

なり

環 境 部 会



大西 慧子	畑 洋子
太野 垣良子	森本 くるみ
野中 陸子	

～自然の恵みが循環するエコシティ篠山をめざして～

誰もが、無理なく続けられる循環型の生活でエコシティ宣言するまち

はじめに

篠山市は、きれいな水と豊かな土地の上に歴史と暮らしが息づいて、都会の近くにありながら田舎の暮らしが残っています。

私たち第5期篠山市女性委員会では、営々と培われた伝統と文化を大切にしながら自然に恵まれ豊かな自然環境のこのまちを、次の世代につなげるため、そして今生きている自分自身のためにも、篠山市の素晴らしい生活環境を守ることが大切だと考え、身近なゴミ問題や生活排水について注目しました。

私たちの暮らし

現代の私たちのライフスタイルは、便利で快適を追い求めています。しかし、一方で大量生産、大量消費、大量廃棄という経済システムや生活様式が、エネルギー資源問題やゴミ問題、地球温暖化など、環境破壊にもつながっています。

篠山市のゴミの現状

平成19年10月15日・平成20年7月14日に清掃センター 視察

篠山市清掃センターは、将来を見据えて地域環境を整備するために最新鋭の設備を持つ焼却施設として平成14年に建設されました。

ゴミの増加やゴミ質の変化に対応でき、ダイオキシン類の対策が行え、焼却灰や飛灰のリサイクルや減容化、余熱エネルギーを有効に利用することを目的としています。篠山市総合計画で人口6万人構想が打ち立てられその構想を基に建設されました。

私たちの生活環境を整備してくれる大切な役割をもつ施設です。しかし、私たちは人口が合併時の4万7千人から減少していることや、丹波市に焼却施設ができる計画が進んでいることなど当初の計画とは変化している現状から、運営面でも厳しい状況にあると考えました。

篠山市清掃センターでは、篠山市内のゴミ86%と丹波市山南町のゴミ14%、が処理されています。これらのゴミを処理するには、平成19年度では、7億5千万円の費用（収集費、維持費、人件費、修繕費など 資料1参照）がかかっています。このような篠山市のゴミの現状をみることで、環境の面そして、財政の面からも、私たち一人ひとりにできることがあると考えます。

(1) 私たちはどのようにしてゴミをだしているか？

私たちは家庭から出るゴミを、分別カレンダーをみながら、注意事項を守って可燃ゴミ・資源ゴミ（プラ、缶・ビン、金属類、ペットボトル）・埋立ゴミ・粗大ゴミに分別し、地区ごとに決められた日時にゴミステーションまで搬出します。または、直接清掃センターまで搬入します。そして、新聞紙・ダンボール・雑誌・布類・牛乳パック・トレーなどは学校のリサイクル活動やリサイクル業者、店に出しています。

(2) ゴミステーションや搬入された【ゴミの行方】


【可燃ゴミ】【缶・ビン】【ペットボトル・プラスチックゴミ】【不燃ゴミ】の4つのラインで行われています。

●【可燃ゴミの行方】

ゴミピットに集められ、焼却炉でダイオキシン類発生を防ぐようゴミは完全に焼却されます。（焼却炉内は、燃焼効率をよくするため、ゴミ熱量を均一にするために1日24時間連続運転され、安定した燃焼が行われるよう工夫してある。）そして、焼却灰は工程のなかで、不燃物など前処理され、灰溶融処理などでスラグピットという砂のようなものになり施設の埋立地に処分されていました。埋立残余量（敷地内にある埋立地に処理できるゴミの量）コスト面などかの関係から現在はフェニックスという各自治体が出資した神戸の埋立地に処分されています。

●【資源ゴミの行方】（缶・ビン・ペットボトル・プラスチックゴミ）

資源ゴミは、機械にかけられる前に手作業で選別されます。分別できていない現状があるためです。ペットボトルの蓋をしたまま出している。資源ゴミでないものが混ざっている。

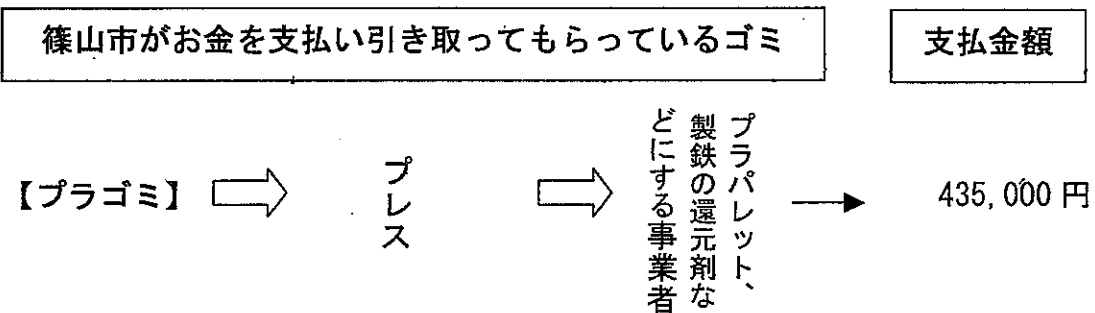
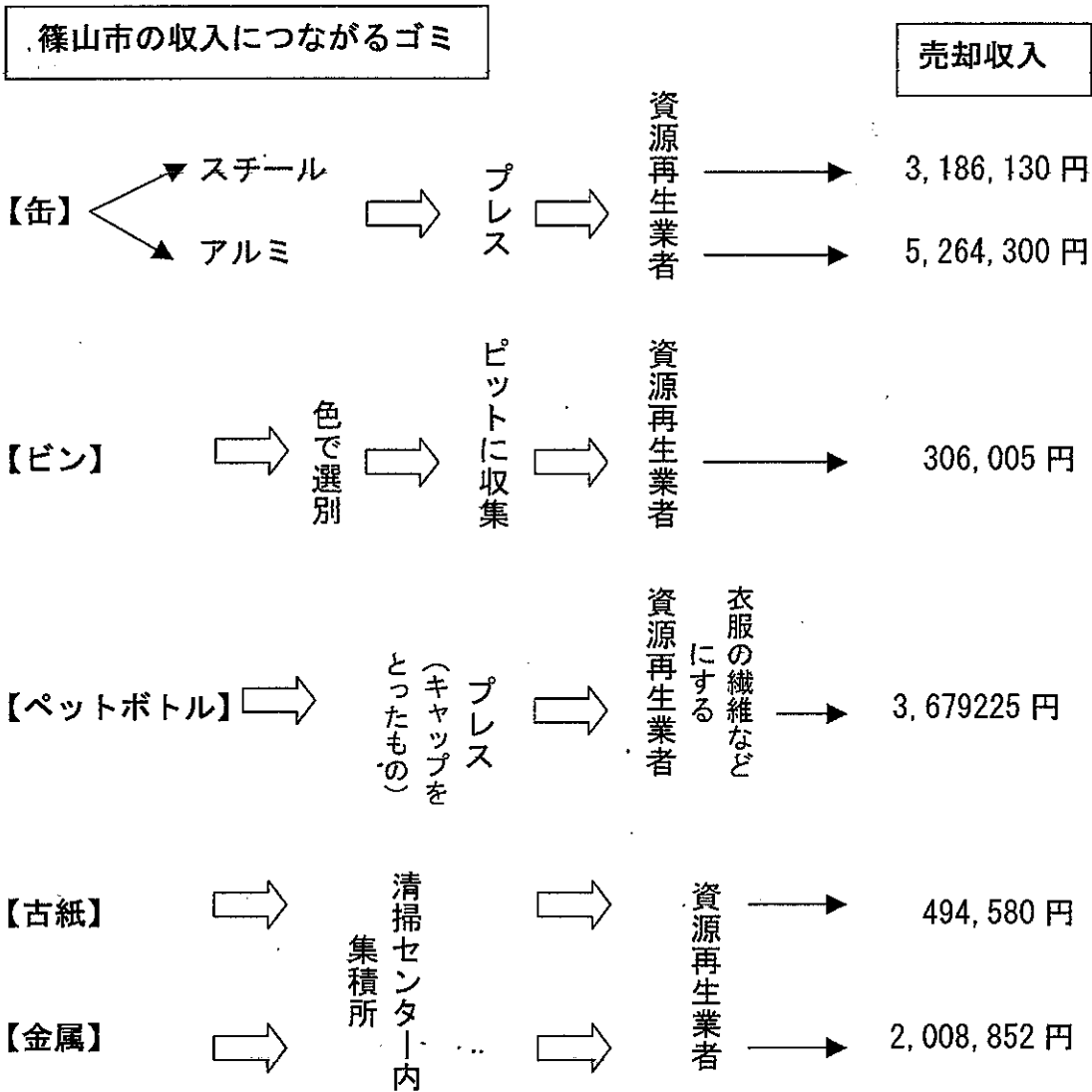
（例  マークがないものをプラゴミとして出していたり、瓶などの中に危険なカミソリや注射針などが入れられていたりする。）

※よく間違えられてプラゴミに入っているゴミや注意したいことをまとめた【第5期篠山市女性委員会制作ビデオ】をみてください。

●【埋立ゴミ・粗大ゴミの行方】

鍋ややかん、ストーブなどから資源を回収できる不燃性の粗大不燃ゴミなども、穴が開いていないガスボンベや爆発物など直ぐに処理機械に適さないものが混ざっているために手作業で選別されています。そして、鉄・金属など再生できるものと再生できないものに分けられ、再生できるものは売却（資料2参照）され、できないものは埋立ゴミとして敷地内にある埋立地で処分されます。また焼却灰などは、神戸のフェニックス埋立地に搬入されます。（搬入処理費用は平成20年度見込み 17,964,000円）

平成19年度 資源ゴミの行方とお金



(平成19年度・売却収入=14,939,092 円 資料2参照)

(3) 篠山市の家庭系ゴミの排出状況 (資料3 参照)

1年間に家庭から出るゴミは、平成17年度は10,504トン、平成18年度は10,449トン、平成19年度は10,316トンです。人口は変動していますが、単純計算で、ひとりが一年間に出すゴミの量は200~250kgになります。

- ・ ゴミの内訳 (資料4 円グラフ 参照) 可燃ゴミが多い
- ・ 19年度の篠山市の家庭系・事業系ゴミの処理率の内訳 (資料4 参照)
焼却処理率 85.6% 埋立処理率 6.1% 資源化率 8.4%
- ・ 19年度の篠山市ゴミの資源化

ゴミの種類	回収量	資源化量	資源化率
ペットボトル	90 t	77 t	77.8%
缶・ビン	478 t	259 t	54.2%
プラゴミ	300 t	126 t	42%

注) 汚れが付着した状態では資源ゴミとはいえず、センターでは、手作業で選別され焼却処分される

私たちが気づいた篠山市の課題

以上みてきたように、集められたゴミは篠山市の地域環境を整備するため清掃センターで処理されていきます。篠山市は、循環関連法(資料5 参照)に基づき、市の責務として埋め立て場所、清掃センターの耐用年数などを計画し、ゴミの減量化を呼びかけています。

しかし、あたりまえのゴミの減量を何のためにしないといけないのか？篠山市はどうして呼びかけているのか？環境のため地球のためと大きすぎて漠然と捉えている私たちに気づきました。一人が努力しても変わるようにも思えず、納得いかないことやみんなで取り組まないと難しい環境問題、ごみ問題は面倒だと思いました。あたりまえのことをみんなが同じ方向に進むには篠山市の環境基本計画ができていない現状では、私たち市民はなぜゴミの減量をするのか、何を指して、どう行動すればいいのかとまどってしまうのではないのでしょうか。

私たちは、環境の研修会で「地球の秘密」を書いた坪田愛華さんを知り、自らの行動がどういう意味を持つかを教えられ、また、「ハチドリの一滴(ひとしずく)」の絵本から小さな力の大切さ、一人でもめげずに行動することをもう一度振り返りました。気を取り直して、私たちは「誰もが無理なく続けられるこ

と”を考えながら篠山市民が最低これだけはしなくては・・・という意識のもとに大きくは地球を守っていきましようといきかけ、提言することとしました。
(別紙イメージ図1)

そこで、ゴミと資源に関する環境問題を解決していく上で“5R”と言われているキーワードを中心に考えていきました。“5R”とは、以下の頭文字です。

- ・リデュース (Reduce)・・・使い捨ての商品やごみになりそうなものは買わないなど、捨てることを見直す
- ・リユース (Reuse)・・・ビールやジュースの瓶を回収し、捨てるのではなく、もう一度使って再利用する
- ・リサイクル (Recycle)・・・分類して集め再利用する
- ・リフューズ (Refuse)・・・過剰包装や割り箸、レジ袋などを断る
- ・リペア (Repair)・・・壊れたものを捨てずに修理して長く使う

暮らしている私たちができること 1 (別紙1)

私たちがゴミ出しマナーを守ることによって篠山市の財政に節約効果や収入があると考えます。

手作業の選別が早く済むことや必要なくなることでの手間のコスト

きれいにできてきっちり分別することで高い値段で売れる

- ※ 質のよいペットボトルは高値で売却される。(篠山市の収入となる)
質のよいとは、プラ包装を剥し、汚れていないもの。(水洗いしたもの)
- ※ 分別時に間違っていて入っているものなどから、故障の原因となり得る。
修理する時間や修理費のムダが省ける。

提案1 私たち誰もが無理なく続けられるゴミ分別 (ビデオ制作)

～ プラゴミが資源になる条件を満たしましょう ～

1. プラスチック容器包装【プラマーク】がついていること
2. 濡れていないこと
3. 汚れていないこと

- ☆ 濡れないうちに分別
 - ・おかき、のり、春雨やスパゲティなど、中身が乾燥していて包装にプラマークがついているものは、直接ピンクの袋に入れる
- ☆ 汚れをとる
 - ・豆腐のパックやこんにゃく、漬物など中身が濡れているもので包装にプラマークがついているものは、軽くゆすいで乾いた布で拭きピンクの袋に入れる
 - ・袋を広げて乾かしてからピンクの袋に入れる
- ☆ 特に注意をする
 - ・発砲スチールはプラゴミ分別できない種類のものであるので、プラマークの確認を念入りに行う（プラマークがついているものだけをピンクの袋のプラゴミに分別、ついていないものは燃えるゴミに分別）
 - ・プラスチック成型品（おもちゃやお皿、弁当箱、梱包テープなど）はプラマークがついていないものが多いのでマークを確認して、燃えるゴミに分別
 - ・中身が油まみれのもが入っていた袋など、明らかに汚れているものは洗剤や水を多く使ってしまうので迷わず燃えるゴミに分別
 - ・プラマークのついた袋にプラマークがついているプラゴミを入れ、縛って二重袋にして入れない（中身が確認できるように直接ピンクの袋に入れる）
 - ・釣り糸や梱包用テープなど、長いものは機械に巻きついて機械が動かなくなることもあるので燃えるゴミに分別
- ☆ ペットボトルの分別
 - ・キャップを取り、ラベルを剥す → ピンクのゴミ袋に
 - ・ペットボトルは中を洗って乾かす → グリーンの袋に

注) ペットボトルはへこまず程度で袋に入れる

市民が搬出するゴミの分別を徹底すれば、手作業での再分別という手間が省け、燃えるゴミが減り、温室効果ガスの発生を少なくし、焼却炉を長く持たせるといった効果もあります。

提案2 5Rを意識して生活しましょう（別紙2 エコマーク入り啓発チラシ）

「いらぬものは買わない」「使える物は最後まで」「資源ゴミは洗って分別」などゴミを減らす工夫ができます。

- 例えば、
- 買い物の際
 - マイバックを使用
 - ムダなものは買わない
 - 詰め替え商品を買う
 - 再使用できる容器入りの商品を買う
 - 家庭では
 - 生ゴミのリサイクル（堆肥化）
 - ダイレクトメールを断わる
 - ティッシュの使い方も見直してみる

私たちは、長く使えるもの、包装の少ないもの、エネルギー消費の少ないもの、自然や健康を損なわないもの、化学物質が少ないもの、再生原料からつくられたもの、近くで作られたもの、旬のもの（地産地消）を選び、必要なものを必要なだけ環境対策に熱心な店で買うといったことは、意識すれば直ぐに行動に移せることだと思います。また、実際には意識せず、実行できていることも多いはずで、今後、マイバック利用や環境にやさしい取り組みをしている企業の製品を選ぶなど消費者の行動で環境にやさしい取り組みが増えてくることと思います。

篠山市の生活排水など 水の現状

平成20年5月13日 西新町浄水場、篠山環境衛生センター視察

(1) 浄水場

川や湖、地下水などの水をきれいにして私たちの水道から出る水を運んでくれている浄水場は、市内に11ヶ所あります。（資料6参照）西新町の浄水場でその全てを24時間管理されています。安全な水を供給していただいているので、私たちは安心して水を利用することができます。

篠山市全体で消毒に使う薬代が年に約6,600,000円（平成19年度 6,614,000円）かかっていますが、私たちが川を汚さなかったら費用が安くすむかも知れません。水はかぎりあるもので、大切に使いたいものです。

(2) 下水道

篠山市は、下水道が普及しています。水洗化率¹は87.5%、下水道普及率²は100%です。（資料7参照）市は、生活排水の適切な処理のため下水処理率³100%をめざして下水管を管理しています。...

篠山市の下水道施設は27箇所あります。下水道のおかげで汚れた水をきれいにして川に戻すので川や海、湖を汚さず美しい自然が守られています。また、水洗トイレになってさわやかに生活ができています。大雨が降った時も下水道で集めて流れるので安心です。農水路以外にはドブやミゾも少なくなつて嫌な臭いもほとんど無く快適な生活ができています。

水洗化率¹.....篠山市で給水装置を施し、汚物を水で洗い流す便所にしている割合

下水道普及率²...篠山市で下水や雨水を流す排水用水路の普及している割合

下水処理率³.....篠山市で下水を人工的に浄化、操作する割合

暮らしている私たちができること 2

上下水道のしくみや役割（資料8参照）もあり、水の循環を支えています。私たちはこの水の循環を絶やさず、私たちが使える水がなくならないように意識することが大切です。篠山の田畑を潤し、貯水池やダムに注ぎ込む川。メダカや川魚、トンボや蜚の生物が住み美しい景観を残していくためにも河川の水質保全に取り組むことは大事なことです。

篠山市の下水管は人が入れるような大きさではなく定期的に掃除や点検はできないようです。異常時に部分的に異物を取り除く作業をされています。

私たちは、下水管が汚れたり、壊れたりする原因をつくらないことが大切です。

家庭では・・・

- ① 野菜くずやご飯の残り、てんぷら油やサラダ油などの食用廃油を流さない
- ② 水洗トイレには、トイレットペーパー以外の紙や異物を流さない
- ③ ポイ捨てはやめる
- ④ 合成洗剤や塩素系洗剤、カビ落とし剤などの使用はできるだけ控える

地域では・・・

- ① 河川の水質保全やクリーン作戦など積極的に取り組む
- ② 環境学習など積極的に取り組む

提言に向けて

以上、私たちは身近な暮らしの中の問題に注目し、私たちが搬出し収集されたゴミが、再度時間をかけ人の手で分別されているという現状や、私たちが搬出したゴミの処理にかかる費用、そして水の循環をみてきました。

私たちはゴミを減らすことの努力と共に、篠山市でのルールを守り、きっちり分別してごみを搬出する努力が必要です。また、混ぜて捨てればタダのゴミでも、分別して出せば立派な資源となります。資源ゴミの分別は、プラマークなどの確認をする・水洗いをして汚れを落とすなどを意識して行うことで、資源化物の売却収入は上がり、少しでも財政難の篠山市の助けになるのではないのでしょうか。

自然に還るゴミは燃やすのではなく自然に還すことや、生活排水について見直し私たちが地球の資源を大切に暮らす方を考え行動することが求められています。豊かで便利な社会は、その代償として、地球に大きな負担をかけてきました。一人ひとりが確実に自分のできることを果たさなければ次の世代に渡す地球の資源や美しく豊かな環境は残っていないのかもしれない。

そこで私たち第5期篠山市女性委員会は、市民・事業者・行政が、何を共有し何を協力すれば篠山市の環境によいのかという何を、大きく持続可能な循環型の社会をビジョンとして提言にまとめました。

篠山市では、環境基本計画が策定中です。篠山市の環境について、循環型の生活を意識し環境にやさしい暮らし方をめざして、市民、事業者、行政が共に行動し持続可能な清潔で快適なまちづくりに取り組めるようそれぞれができることをまとめ提言とします。

提言・・・別紙1

～自然の恵みが循環するエコシティ篠山をめざして～

誰もが、無理なく続けられる循環型の生活でエコシティ宣言するまち

別紙2

エコマーク入りの啓発チラシ “あなたもわたしもエコ博士”

分別ビデオ

おわりに

第5期篠山市女性委員会は、多くの市民の方々や関係行政機関にご協力頂き、“ゴミの分別”のビデオと篠山市独自のエコマークがあればとの提案でマークをつくり、そのマーク入りの“あなたもわたしもエコ博士”というチラシをつくりました。自治会の学習会、ご家庭で活用していただければ幸いです。

暮らしている私たちが、私たちのまち篠山市の豊かな自然や歴史と恵まれた生活環境を大切にしながら次の世代につなげていくよう守っていきましょう。